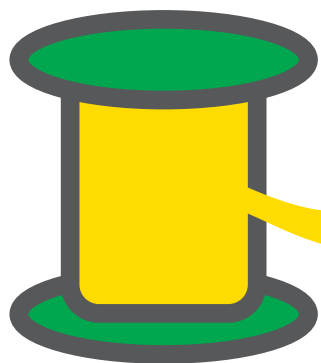


ラメ系の形状と織物との相性

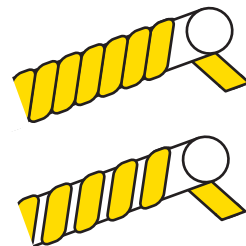
ヒライト
平系



平系(ボビンに巻かれたテープ状のラメ系)は、経糸に使用されることが多いです。ボビンを転がして整経します。厚みが薄いと切れてしまう恐れがありますので、25ミクロン(100ゲージ)以上のものが適当です。フィルム1枚の1PLY構造より、フィルム2枚の2PLY構造の方が強度が増します。経糸に平系をそのまま使うことは難しいです。飛びにくいですが、ネジレが入ってしまいやすいです。レピアなどで織られる場合は織機の一部を改良されています。シャトルでは平系使用が多いです。

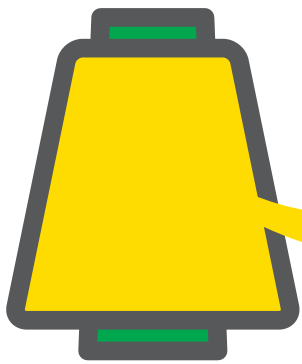
マルヨリ
丸撚

ジャバラヨリ
蛇腹撚



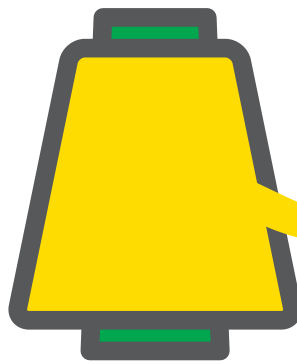
芯糸にラメの平系が密に巻きつけられたタイプです。まさに「金糸」「銀糸」という上品な光沢があり、和装では主にこの丸撚が使用されています。織物の経糸がポピュラーですが、150デニールの糸を芯糸にして、その周囲にラメの平系を巻きつけたタイプのことを指します。「1.5掛」「イチハン」とも呼びます。断面が丸いので滑らかな肌当たりになります。薄い生地だと丸撚の硬さが勝ってしまいましたが、厚みのある生地だとザラツキの少ない触感になり、デニム・タオルにも使用されています。

タスキ撚



緯糸に良く使用されるラメ系です。タスキ撚とは、ラメの平系を真ん中にして、ナイロンやポリエステルなどの糸を2本掛けてカバーリングしているものです。S撚とZ撚で糸を掛けているので、着物のタスキ掛けのような×(バッテン)の形状になります。糸を掛ける理由は、緯糸で飛びやすくするためです。ラメのピカーツとした光沢をできるだけ邪魔しない為に15~20デニールの細い糸を掛けます。あえて太めの糸をカバーリングし、ラメの光沢を控えめにすることもできます。

ハゴロモヨリ
羽衣撚・ブリヤン撚



「ハゴロモ」と呼ばれ広く使用されているラメ系です。定番は75デニールの糸に130切のラメの平系が甘くカバーリングされたものです。ラメがネジれてキラッキラツとした光沢になります。ラメの浮いた部分が製織中に引っかかって切れてしまう事を防ぐには、15~20デニールの細い糸を上から掛ける「ブリヤン撚」がおすすめです。細い糸がラメの浮きをしっかりと抑え、滑らかに糸道に入るからです。